

一
二

全書全圖統制年表會成
於此
聖皇
大德
大正
演說

全國金融統制會發會式ニ於ケル賀屋大藏大臣演說

五月二十三日
於東京銀行集會所

本日茲ニ全國金融統制會發會式ノ開催セララルニ當リマシテ、慶祝ノ意ヲ表スルト共ニ、一言所感ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ私ノ最モ欣快トスル所デアリマス。

去ル四月十八日金融統制團體令公布施行以來、金融統制團體ノ設立ハ順調ニ進ミ既ニ九箇ノ業態別統制會ノ成立ヲ見、本日又全國金融統制會成立ノ運びト相成ツタノデアリマス。私ハ此ノ間ニ於ケル關係者各位ノ盡力ニ對シマシテ深甚ナル敬意ヲ表スルト共ニ、大東亞戰爭ノ完遂ニ對處スベキ我國金融統制機構ガ茲ニ整備ヲ見マシタコトニ對シ、國家ノ爲衷心慶祝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

金融界ニ於キマシテハ相當以前ヨリ金融事業ノ業態別ニ協會等ノ團體ガアリ、更ニ一昨年九月ニハ全國金融協議會ノ結成ヲ見、是等ノ團體ハ何レモ自治的ノ協力團體トシテ夫々適切ナル活動ニ依リ國家ニ貢

獻シ來ツタノデアリマスガ、時局ノ進展ニ伴ヒ金融事業ノ機能ヲ更ニ一段ト綜合的ニ發揮スルノ要緊切ト相成リマスルヤ、全國金融協議會ニ於テハ新ニ金融事業ノ強力ナル法的組織體ノ設立ヲ要望セララル所ガアツタノデアリマス。今茲ニ金融統制團體ノ設立ヲ見ルニ及ンデ、全國金融協議會モ全國金融統制會トシテ發展的ニ解消スルコトト相成ツタノデアリマシテ、私ハ多年是等諸團體ノ活動ニ盡力セラレタル諸君ノ御努力ニ對シ此ノ機會ニ深ク敬意ヲ表スル次第デアリマス。

大東亞戰爭勃發以來皇軍將士ノ勇戰奮闘ニ依リ陸ニ海ニ又空ニ赫々タル戰果ヲ收メ、國威ヲ四海ニ宣揚シツツアリマスコトハ、寔ニ感激措ク能ハザル所デアリマス。此ノ間我國金融界ガ皇軍ノ偉大ナル戰果ヲ反映シ、現在迄甚ダ平靜且ツ順調ナル推移ヲ辿ツテ參リマシタコトハ、各位ト共ニ衷心同慶ニ堪ヘザル所デアリマス。然シ乍ラ現在ハ未ダ緒戰デアリマシテ、此ノ瓊古ノ大戰爭ヲ勝チ拔キ更ニ新シキ大東亞建設ノ大業ヲ完成スルガ爲ニハ、尙尠ナカラザル年月ヲ要スベキコトヲ覺悟セネバナラヌノデアリマス。

而シテ今後善悪ノ進退ニ對應シ國家總力ノ發揮ニ遺憾ナカラシムル
爲ニハ、金融ノ方面ニ於テ其ノ機能ヲ最高度ニ發揮セシムル爲ニ、
従前ニ増シテ一層適切ナ方策ヲ講スル必要ガ加ツテ參ツタノデアリマ
シテ、之ガ爲金融ノ統制ハ愈々強化セラレ且ツ精細ニ且ル必要ノアリ
マスコトハ、當然ノコト、甲サネバナラヌノデアリマス。

金融ノ統制ハ支那事變發生以來漸次其ノ強化ヲ見テ居リマス。
即チ各種ノ金融機關ニ對シ、銀行法其ノ他各金融機關ニ關スル法令ニ
依ル一般的監督ノ外、支那事變發生以來ハ臨時資金調整法、銀行等資
金運用令等ニ依ル統制ガ行ハレテ居リ、金融業者ノ協力ト相俟ツテ、
概不所期ノ效果ヲ收メテ參ツテ居ルノデアリマス。然ル處最近ニ於ケ
ル我國内外ノ情勢、殊ニ對米英開戦ニ伴フ事變ノ進退ニ對處シテ適切
ナル金融統制ヲ實施スル爲、政府ハ、先ヅ第一ニ前議會ノ協賛ヲ經テ
日本銀行法ヲ制定シ、日本銀行制度ノ全面的改正ヲ行ツタノデアリマ
ス。日本銀行ハ之ニ基キ五月一日ヲ期シテ改組セラレ、今ヤ名實共ニ我國

ノ中央發券銀行トシテ、政府ト表裏一體ノ關係ニ立チ、國策ニ即應シテ、通貨ノ調節、金融ノ調整及信用制度ノ保持育成ニ任ズルト共ニ、大東亞共榮圈内ニ於ケル金融ノ中心機關トシテ國際決濟ノ中樞タルベキ地位ニ立ツコトト相成ツテ居リマス。

他方政府ハ日本銀行ノ改組ト相並ンデ茲ニ金融統制團體ヲ設立シ、金融統制機構ノ整備ヲ圖ラントスルモノデアリマス。

惟フニ金融ヲ統制スルニ富リマシテ、全テノ金融機關ガ一體的ニ活動シ得ルガ如キ組織ヲ形成シ、之ニ依ツテ綜合的ニ其ノ機能ヲ發揮シ、自律的ニ國家ノ要請スル所ヲ十分ニ實現スルト謂フ状態ガ望ミ得マシナラバ、之コソ金融統制ノ方式トシテ最モ理想トスル所デアルト申サネバナラナイノデアリマス。今回金融統制團體ノ設立ニ付テ政府ノ所期スル處ハ究極的ニハ實ニ茲ニ在ルノデアリマス。政府トシテハ、業態別統制會ノ設立ニ依ツテ其ノ業態ニ屬スル金融機關ノ機能ガ一體的ニ發揮セラレ、更ニ又全國金融統制會ノ設立ニ依ツテ全テノ金融機

關カ一丸トナツテ其ノ機能ヲ綜合的ニ發揮スルコトヲ期待致シテ居ル
ノデアリマス。

更ニ金融ノ統制モ今後ハ一段ト微細ノ點ニ亙ツテ迄之ヲ行フ必要ガ
出テ參ツテ居ルノデアリマスガ、其ノ様ナ細^カ事項ニ付テハ、政府ニ
於テ一々立入ツテ指導統制ヲ行フト云フコトハ必ズシモ適當デナク、
寧ロ政府ニ於テ方針ヲ示シ、其ノ實行上必要ナル具體的措置ハ金融機
關ノ組織體ヲ通ズル自律的指導統制ニ委ネルコトガ、實際的デアリ又
效果的デアル場合ガ多イノデアリマシテ、今回ノ金融統制團體ノ設立
ニ付テハ此ノ様ナ實際的必要モ其ノ理由ノ一トナツテ居ルノデアリマ
ス。

甲ス迄モナク現下金融問題ノ中心ハ、第一ニハ國民貯蓄ノ增強デア
リ、第二ニハ蓄積セラレタル資金ノ國家目的ニ即應スル適正ナル配分
デアリマス。

國家的見地ニ於テ必要ト認メラルル資金ハ必ズ之ヲ調達スル必要ガ

アリマス。而モ通貨ノ増發ヲ通ジテ造出セラル、資金ニ依リ之ヲ調達
スルノテナク、専ラ國民ノ貯蓄ニ基ク蓄積資金ノ形テ之ヲ調達セネバ
ナラナイノデアリマシテ、茲ニ國民貯蓄増強ノ必要ナル銀田ガ存スル
ノデアリマス。

昭和十六年度ニ於ケル國民貯蓄増加ノ實績ハ約百六十億二千萬圓テ
アリマシテ、目標額ノ百七十億圓ニ比シテ稍不足ト相成ツテ居リマス。
然シ乍ラ國債ノ發行カ豫定ニ比シテ稍少ナカツタ點ヲ觀察致シマスト、
大体ニ於テ所期ノ成績ヲ得タモノト甲スコトガ出來ルノデアリマ
ス。本年度ニ於テハ公債ノ消化ニ要スル資金ヲ百七十億圓、生産力ノ
擴充ニ要スル資金ヲ六十億圓ト豫測致シマシテ、國民貯蓄増加ノ目標
額ヲ二百三十億圓ト決定致シタノデアリマス。此ノ目標額ヲ達成スル
爲ニハ國民ノ勤儉貯蓄ニ依ル協力ニ俟タネバナラヌコト勿論デアリマ
スガ、同時ニ國債ノ金融機關ガ具ノ全機能ヲ舉ゲテ國民貯蓄ノ増強ニ
協力スルコトガ必要デアリマシテ、金融統制團體ニ於テハ、如何ニ

セハ金融機関ノ貯蓄取ガ取セ効果的ニ行ハレ得ルカラ眞劔ニ研究シ、
莫ニ其ノ方法ノ實行ニ際シアモ傘下金融機関ノ資金蒐集ニ付適切ナル
指導統制ヲ行ヒ、其ノ效果ノ萬全ヲ期スルト云フ働キガ茲ニ期待セラ
レルノデアリマス。

次ハ資金ノ適正ナル配分デアリマス。

一定ノ時期ヲ採ツテ見レバ敷置的ニ目ヲ限度ノアル蓄積資金ヲ取セ脚
家目的ニ適合スルガ如ク活用致シマス爲ニハ、資金ノ配分ハ之ヲ計畫
的ニ行ヒ、緊要ナル方面ニ對シテハ必要額ヲ必要時ニ適切ナル方法ニ
依ツテ必ス供給スル反面、資金ガ計畫外ニ流出スルコトヲ絶對ニ許サ
サルコトガ必妥デアリマス。今日ノ場合蓄積セフレタル資金ハ之ヲ
價ノ消化、生産力擴充資金、ニ集中的ニ配分セネバナラヌコトハ、莫
クメテ申ス迄モアイ所デアリマス。又生産力擴充資金ノ供給ニ際シテハ、
物價及勞力ノ供給ノ状況ト下分睨合セ、時局的ニモ場所的ニモ互ニ阻
害スル所アカラシムルト云フコトハ資金ノ配分ニ際シ取セ留意スベキ
點デアリマス。

政府ハ夙ニ資金統制ニ關スル各般ノ計畫ヲ樹立シ、右ニ申述べマシ
タ意味ニ於テ、資金ノ配分ヲ計畫的且ツ適正ナラシムルコトニ努メテ
居ルノデアリマス。從ヒマシテ、資金ノ動キハ凡テ此等ノ計畫ニ即應
シテ行ハレネバナラヌノデアリマシテ、金融機關ノ行フ資金ノ蒐集及
運用モ亦是等ノ計畫ニ其ノ基本ヲ置クベキモノデアリマス。而シテ政
府ハ實際ノ資金ノ動キト是等ノ計畫トノ適合ヲ圖ル爲、臨時資金調整
法及銀行等資金運用令ニ依ル資金移動ノ調整ヲ實行致シテ居リ、更ニ
又資金ノ計畫的配分ノ實現ヲ確保スル爲、銀行等資金運用令ニ基キ日
本興業銀行其ノ他ニ對シテ資金融通ノ命令ヲ發シ、更ニ近クハ戰時金
融金庫ヲ設立シマシタコトハ各位ノ既ニ御承知ノ通りデアリマス。
然シ乍ラ右ニ申述べマシタ如キコトハ金融機關ガ個々ニ此ノ趣旨ヲ體
シテ努力スルト謂フ場合ヨリモ、金融統制團體ガ整備セラレ、金融機
關ノ機能ガ綜合的ニ發揮セラレル場合ニ於テ最モ克ク實現セラレルモノト考
ヘラレルノデアリマス。從ツテ金融統制團體ニ於キマシテハ、例ヘバ

金融機關ヨリ時々資金ノ蒐集及運用ニ關スル計畫ヲ徴シ、之ガ全體ノ
國家資金計畫ニ適合スル様必要ナル指示ヲ與フルト同時ニ、其ノ實行
ヲ確保スル爲必要ナル指導統制ヲ行フト謂フガ如キ事業ヲ行ヒ、又個
々ノ金融機關ニ感債ノ消化及貯債ノ引受等ニ關スル率又ハ金額等ヲ指
示シテ必要ナクケノ感債及貯債ノ消化ヲ確保スルト謂フガ如キ事業ヲ
行フトコトガ其ノ重要ナル事業ト相成ルモノト考ヘルノデアリマス。
尙資金ノ配分ガ一定期間全體トシテハ計畫通り行ハレ得ルモノト致
シマシテモ、金融ノ實際トシテハ其ノ期間内ノ或時期ニ於テ時間的又
場所的ノ障礙ヒシ生ズルト云フコトハ避ケ得ラレヌ所デアリマス。從
ツテ金融統制團體ニ於テ細心ナル配慮ニ基ク適當ナル指導統制ノ方法
ニ依リ常に資金ノ需要供給ノ適合ヲ圖リ計畫ノ實行ノ確保ニ協力スル
ト云フコトモ亦必要ナコトデアリマシテ、政府トシテハ此ノ様ナ活動
ヲ金融統制團體ニ對シテ期待致シ度イノデアリマス。
又金融統制團體ノ通ジテ金融事業ト産業トノ關係ガ一段ト緊密トナ

ルコトハ、政府ノ待ニ期待致シテ居ル所デアリマス。
物資、勞力及資金ハ生産ニ不可缺ノモノデアリマシテ、生産ノ能率
ヲ向上セシムル爲ニハ此ノ三者ガ時間的ニ、場所的ニ、又量的ニ最モ
適切ニ組合ハサレツツ働クコトガ必要デアリマス。而シテ之ガ爲ニハ
先ツ物資、勞力及資金ノ各々ニ付テ、國家計畫ガ相互ニ有機的關聯ノ
下ニ適切ニ樹立セラレ、其ノ計畫ニ副ツテ資金ノ配分ガ計畫的ニ行ハ
レルト云フコトガ先決問題デアルコトハ勿論デアリマスガ、金融機關
ニ於テ資金ヲ實際ニ配分スルニ當リマシテハ、其ノ時期、方法、條件
等ニ關シ幾多ノ問題ガアルデアリマシテ、結局資金ノ計畫的配分ヲ擔
當スル金融機關ノ側ト物資及勞力ノ配分ヲ擔當スル方面トノ間ニ絶エ
ズ密接ナル連絡ノ存スルコトガ必要ト相成ルデアリマス。更ニ又時
局ニ緊要ト産業デアツテ物資及勞力ノ供給ニ付十分ノ見通シノアルモ
ノニ對シ、必要額ノ資金ヲ適時ニ供給スルコトガ金融機關ニ課セラレタ重大ナル任務

デアルト同時ニ、供給セラレタ資金ヲ最も効果的ニ活用シ、働カモ徒
賣ナカラシムルト云フコトハ産業家ニ課セラレタ責務デアリマシテ、
此ノコトハ相互ニ相手方ノ事情ヲ十分理解シ、又其ノ事業ノ運営ニ付
常ニ緊密ナル連絡ガアツテ始メテ期待出來ルコトデアリマス。

而シテ此ノ様ナ状態ヲ實現スルコトモ亦金融統制團體トシテ擔當ス
ベキ任務デアリマス。例ヘバ金融統制團體ト産業團體ト相互ニ役員
ヲ交換シ、共同ノ委員會ヲ設ケ、共同ノ調査研究又行フト謂フガ如キ、
又例ヘバ金融統制團體ニ於テ社債ノ共同引受、資金ノ共同融通ノ實行
ノ斡旋ヲ行フト謂フガ如キ、金融相談事業ヲ充實スルト謂フガ如キ、
其ノ具體的ノ例デアリマス。政府ハ此ノ様ナ方法ニ依ツテ産業ニ對シ
最も適切ナル資金ノ配分ガ行ハレルト同時ニ、産業ノ側ニ於テ最も適
正ナル資金ノ利用ガ行ハレルト期待致シテ居ル次第デアリマス。

又政府ト致シマシテハ金融界ノ實情ニ即シタ剴切ナル意見ガ、金融
統制團體ヲ通ジテ隨時政府ニ進達セラレ、適切ナル金融統制ヲ行フ上

ノ有益ナル資料トナルベキコトヲ期待致シテ居ルノデアリマス。尙政
府ハ金融ニ關スル各般ノ計畫ノ立案ニ當リマシテハ金融界ノ有スル豊
富ナル知識經驗ヲ活用シテ其ノ適正ヲ期スル爲、全國金融統制會ヲシ
テ之ニ參畫セシムル考デアリマス。

之ヲ要スルニ、金融統制團體ノ活動ガ國策ニ即應シ其ノ目的ノ範圍
内ニ於テ行ハルベキコトハ勿論當然デアリマスガ、與ヘラレタ任務ニ
付テ統制團體ノ理事者ガ諮達ナル構想ト適實ナル判斷トニ基キ、適切
ナル運営ヲ行フコトハ最モ望マシイコトデアリマス。從ツテ統制團體
ノ事業ノ内容ハ當初ヨリ餘リ固定的ノモノトシテ考慮セラレベキモノ
デハナク、關係業者ノ創意ト理事者ノ豊富ナル知識經驗トニ基キ、金
融統制團體ノ生成ニ應ジ發展セシメラルベキモノト考ヘルノデアリマ
ス。又事業遂行ノ方法ニ付キマシテモ、斡旋、指導及權限ヲ以テ臨ム
統制ト云フガ如ク各種ノ方法ニ依ルベキモノデアリマシテ、實情ニ應
ジ弾力性アル運用ヲ企圖スベキモノト存ズルノデアリマス。

只金融統制團體ニ於テ率下金融事業ノ統制ヲ行フニ當リ、其ノ方法
ガ劃一ニ流レズ實情ニ即シ、又個々ノ金融機關ノ經營ニ及ボス影響ヲ
考察シ十分ナル用意ヲ以テ進ムト云フコトハ今後統制團體ノ運營上特
ニ留意スベキ點デアルト考ヘルノデアリマス。

國民貯蓄ノ增強、資金ノ適正ナル配分等ノ問題ハ今後官民一致之ガ
實現ヲ圖ルベキ重大ナル問題デアリマス。我國財政經濟ノ規模ハ、未
曾有ノ大戰爭ノ完遂ト大東亞ノ建設ト爲ニ飛躍的ニ擴大セラレツ、
アルノデアリマス。從ツテ若シ萬一資金ノ蓄積及配分ニ關スル計畫ヲ
豫期ノ通り實現スルコトガ出來ナカツタト致シマスナラバ、通貨ノ膨
脹、生産力ノ減退等憂フベキ結果ヲ招來スルコトハ明ラカデアリマシ
テ、今後金融統制ノ重要性ハ感々増加シ來ツタノデアリマス。仍テ政
府ハ金融統制團體ニ依ル統制ノ方式ヲ以テ之ニ對處セントスルモノデ
アリマシテ、此ノコトタルヤ我國金融ノ歴史ニ於テ正ニ劃期的ノ事業
ト申スベキモノデアリマス。而シテ金融統制團體ニ依ル金融ノ統制方

克ク其ノ成果ヲ收メルト否トハ、我國戰時經濟ノ隆替ニ關スル所デア
リマス。政府トシマシテハ、今後金融統制團體ノ事業ニ對シテハ全面
的ナル援助ヲ與フル方針デアリマス。金融統制團體ガ克ク其ノ機能ヲ
發揮スルニ至リマスレバ、國策ノ目指ス所ハ目ラ實現セラレ、政府ノ
保有スル統制ノ權限ハ之ヲ發動スルヲ要セザル状態ト相成ル譯デアリ
マシテ、此ノ様ナ状態ハ政府トシテ最モ望ム所デアリマス。

今ヤ未曾有ノ時局ニ際會シ官民一體ノ體制ヲ整備シ、國家總力ノ綜
合的發揮ニ努ムベキ秋デアリマス。金融ノ部面ニ於テモ政府ノ指導ノ
下、改組ヲ經テ其ノ機能ヲ元實シタル日本銀行ト金融統制團體トガ相互
ニ表裏一體、唇齒輔車ノ關係ニ立チ、一ハ金融操作ノ方法ニ依リ、他
ハ指導統制ノ方法ニ依ツテ天々其ノ機能ヲ發揮シ、金融事業ノ綜合的
機能ノ發揮ニ向ツテ協力セバナラヌノデアリマス。此ノ秋ニ屆リ全
國金融統制會ノ成立ヲ見ルニ至リマシタコトハ、甚ダ意義深イモノト

甲サネバナラヌノデアリマス。

私ハ茲ニ金融機關ニ關係セラル、各位ガ時局下金融機關ノ振實ヲ克ク諒解セラレ、一團トナツテ金融統制團體ノ活動ニ協力シ其ノ設立ノ目的ノ達成ニ貢獻セラルルコトヲ期待致シマスト共ニ、産業家等ノ方面ニ於キマシテモ金融統制團體設立ノ意義ヲ理解シ、其ノ活動ヲ援助スルト共ニ之ヲ活用シ、併セテ以テ金融統制團體設立ノ趣旨ガ十分實現ヲ見ルニ至リマスコトヲ特ニ希望シテ已マヌモノデアリマス。